



あきたの美術 2015展の開催にあたって

昭和 34 年、「秋田県現代美術展」が開催された。以来半世紀あまり、今年で 57 回目となる展覧会は近年少しずつそのスタイルと名称を変えながら、「あきたの美術 2015」展として開催を迎える。

展覧会は秋田在住のアーティストの活躍を伝えるものとして、公募展の受賞作品を網羅したものだった。最近では分野もアーティストが活躍する場も多様化し続け、出展作の選考に少なからず影響をあたえている。さらにアーティストの数も増え、出展数の増加により展示施設のキャパシティを超える事態となった。

現況の改善を目指して、「あきたの美術 2015 展」で優先したのは作品を鑑賞する空間の確保である。そのため、推薦者を 3 名とし、出展作家の数もこれまでの半分位を目安とした。これにより美術館の空間を活かした、見応えがあるインスタレーションが可能になることだろう。

さらに今回、推薦者として学芸員、ギャラリスト、教育者といった、客観的な視座を取り入れた。3 人と少数であるため、これまでの 8 部門を総括することはできないが、ゆるやかに部門を解体し、幅広いアーティスト、作品を紹介するスタンスを構築した。何より、現代日本のアートシーンを見据えた高い次元の展覧会を提供するために試行するものである。

今年度は五十嵐潤（デザイン・工芸部門担当、秋田公立美術大学教授）、佐々木陽子（写真部門担当・株式会社 Mag / ココロラボラトリー、ギャラリスト）、山本丈志（平面作品部門担当・秋田県文化振興課、VOCA 展 & 日経日本画大賞展推薦委員）の 3 名が推薦者として、「あきたの美術」を紹介する。一堂に会する秋田のアートシーンをぜひご覧いただきたい。



Art of Akita 2015 Exhibition:artist

《photography》KIMURA,Masaki SAITO,Daigo SATO,Tadaaki

《pictures》OHTANI,Yuka OHZEKI,Tomoko HAKUTA,Yoshuya FUJI,Hiroshi YAMAMOTO,Taro

《design & craft》IGARASHI,Jun(special Exhibition) KAMADA,Shouko SHIBATA,Yoshimasa

SHIBUYA,Kazuyuki SHINDO,Masahiko SETTSU,Hiroki TAMURA,Hajime FUJITA,Miho WATANABE,Aoi

■ギャラリートーク

11.1sun 2:00pm-3:00pm

秋田県立美術館 1F 県民ギャラリー

推薦者によるギャラリートークを行います。
観覧・参加無料。どなたでも参加できます。

《平面作品》部門
大谷有花「はなすがた Yamabuki I」2014 (上)
courtesy of I.C.Arts
白田誉主也「カミコニア」2014 (左上)



AA 2015 Exhibition

Art of Akita 2015 Exhibition

2015.10.29 thu - 11.3 tue

秋田県立美術館 1F 県民ギャラリー

(平面作品・デザイン・工芸・写真)

開館時間 ■ 10:00am-5:00pm

(入館は 4:30pm まで。最終日は 3:00pm まで。)

観覧無料 ■ 会期中休館日はありません。

主催 ■ あきたアートプロジェクト (秋田市中心市街地アートによる賑わいづくり実行委員会)

《問い合わせ先》

■ 秋田県 観光文化スポーツ部文化振興課

〒010-8572 秋田市山王 3 丁目 1-1 TEL:018-860-1530 FAX:018-860-3880

■ あきたアートプロジェクト事務局

〒010-0921 秋田市大町 3 丁目 1-12 川反中央ビル 1F ココロラボラトリー内 TEL&FAX:018-866-1559



《平面作品》部門 左から 大関智子「在る」2015、山本太郎「松樹鉄鶴図」2001 ©Taro Yamamoto, courtesy of imura art gallery、藤浩志「Toys Saurus」2015

ハイブリッド、揺籃の地!!

近年、秋田のアートシーンをゆさぶる一大事件は秋田公立美術大学の開校であった。刺激的な人材が全国から大挙して流入したからである。国民文化祭と連動したアートプロジェクトの隆盛もまた、秋田の自然、風土、歴史に触れたアーティストたちにより、秋田の創造の可能性を押し広げた。「秋田 × アーティスト」はまさに、美のハイブリッドを続々と生み出している。名だたる評論家、キュレーター、ギャラリストをうならせる彼らの作品が一堂に会する機会は少ない。いわば秋田に集まったからこそ、「あきたの美術」展だからこそできるお楽しみである。美術館に勤務していた頃には考えられない人選となり、これは望外の喜びに他ならない。「あきたの美術 2015」展は推薦者自身も開展が待ち遠しい展覧会なのである。

山本文志（平面作品部門推薦者・秋田県文化振興課副主幹）

ささやかな、秋田の美を探るもの

僭越ながら、この度「あきたの美術」写真部門へ推薦をさせていただきます。

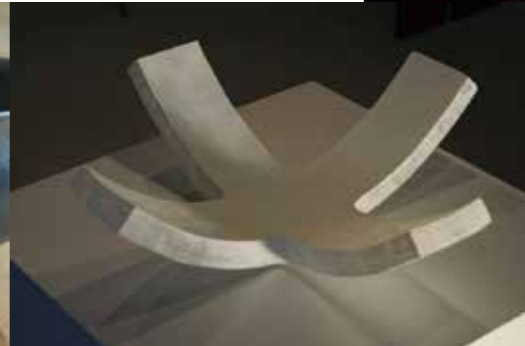
これまで、「ココラボラトリー」での勤務を通じ、秋田の写真家の方々と出会い、素晴らしい作品を拝見してきました。

木村正樹さんは、写真だけでなく立体作品の制作もされています。ご本人はそれぞれに区別をせず、どちらも興味の赴くままに制作しているとのこと。楽しみながら、ときにユーモアや社会的な皮肉を折り込んだ作品たちは、とても不思議な魅力を醸し出しています。齋藤大悟さんは、海辺をテーマに写真を撮り続けています。常に自分の活動について考え、日々真剣に対象へ向かっているからこそ日本海が見せる豊かな表情をとらえられるのでしょう。齋藤さんの写真から、私たちは日本海のエネルギーを分け与えられているようです。

佐藤忠明さんには、今回「うたかた」のシリーズを出展いただきました。どこか異国の風景のようにも感じられますが、どれも湯沢にあるご自宅から半径 100 メートル以内で撮影されています。暗闇や影の中に見える黒のグラデーション、光や風の揺れ、湿り気、様々な繊細な要素を秘めた作品たちは、見るものの視線や興味を奥へ奥へと深めていきます。

三人に共通するのは、「秋田」の美しくも厳しい自然や風土から、ささやかなながらも喜び溢れる対象たちを、丁寧に取り上げ表現を続ける姿です。その真摯な姿勢に敬意を表し今回推薦をさせていただきます。ぜひご覧くださいませ。

佐々木陽子（写真部門推薦者・株式会社 Mag / ココロラボラトリー）



秋田の次世代を担うアーティストたち!!!

美術の概念が急速に拡大し、日々の生活の中に定着してきている中で、秋田の工芸やデザインもまた変わろうとしている。本来、工芸やデザインは生活に根ざしたものであったはずだ。日本の生活の様相が大きく変わる中で、地域にあってその変化に向き合う工芸やデザインを取り上げてみた。工芸の分野では、「今を生きる生活用具」となり得るものを目指している若い作り手の作品を集めてみた。

伝統や技術に根ざしながらも地域の伝統工芸に新たな息吹を送り込み、その魅力を再発見させてくれる動きは、これからの潮流となると思われる。

一方、個の力で秋田の工芸世界を切り開く、陶磁器、ガラス、アクセサリーなどの作家たちも出て来ていることに、大きな期待を寄せるものである。

デザインでは、若い世代に向け地域の魅力を多様な手段で発信し、地域におけるグラフィックデザインの可能性を示す動きがあること、そして、地域からでも独自なモノづくりが可能なことを示すプロダクトデザインも存在することを紹介したい。

秋田の次世代を担って欲しいと願う期待を込めて、工芸・デザインを俯瞰していただければ幸いです。

五十嵐潤（デザイン工芸部門推薦者・秋田公立美術大学教授）



《デザイン工芸》部門 上段左から
渡邊葵（白岩焼和兵衛窯）「白岩焼海鼠水盤」2015
柴田昌正（柴田慶信商店）「おひつ（6寸）」1985
田村一（陶芸家）「幻花」磁器 2015
藤田美帆（レース編み作家）「SANGO」ヘッドドレス 2010
摂津広紀（漆工房せつつ）「銀彩酒器セット」2008
鎌田祥子（硝子工房窯硝）「フレーム」2006
進藤正彦、安藤幸三（進藤電気設計）「Jiwari-moonlight」ルームライト 2010
澁谷和之（澁谷デザイン事務所）／船橋陽馬（写真家）
「大曲のはなし〜勝手に宣伝組合〜」ブックデザイン 2015
※画像は出展予定作品です。都合により変更される場合があります。

2015 Exhibition

《写真》部門 上から
佐藤忠明
「うたかた / utakata」2013
木村正樹
「梵天の子ども」2003
齋藤大悟
「静かな流れ」2010
© DAIGO SAITO